

第115回看護師国家試験 総評

<目次>

I. 全体の概況.....	P.1
II. 必修問題.....	P.2
III. 一般問題.....	P.5
IV. 状況設定問題.....	P.9
V. 第116回国家試験に向けての対策.....	P.12



I. 全体の概況

■ 出題区分ごとの問題数、科目の出題順序

今年度（第 115 回）の看護師国家試験は、令和 5 年版の「看護師国家試験出題基準」に基づき実施され、出題区分ごとの問題数は昨年度（第 114 回）を踏襲しており、大きな構成の変化はありませんでした。

出題区分	午前	午後	合計
必修問題	25 問	25 問	50 問
一般問題	65 問	65 問	130 問
状況設定問題	30 問	30 問	60 問

また、科目の出題順序は昨年度と同様に、「地域・在宅看護論」が「成人看護学」よりも前に配置されました。

これは、2022 年度適用の新カリキュラムにおける、地域・在宅看護論の位置づけを反映させた運用であると考えられます。この傾向は今後も定着していくものと推察されます。

- ・第 114 回から：人体⇒疾病⇒社保⇒基礎⇒**在宅**⇒成人⇒老年⇒小児⇒母性⇒精神⇒統合
- ・第 113 回まで：人体⇒疾病⇒社保⇒基礎⇒成人⇒老年⇒小児⇒母性⇒精神⇒**在宅**⇒統合

■ 出題形式（五肢択一・五肢択二）

出題形式を比較すると、必修問題と一般問題で「五肢択一」の問題が増加、状況設定問題では「五肢択一・択二」の問題はわずかに減少しました。必修問題の五肢問題は、基本知識で対応可能なものが中心でした。また、一般問題では「午後 76（心臓からの血液の拍出）」のように、五肢形式かつ内容自体の難易度が高い設問も見受けられ、問題によって難易度の差が大きくなっています。対照的に、状況設定問題の五肢問題は解きやすいものがほとんどであり、受験生の得点源になったと考えられます。

問題	タイプ	第 114 回	第 115 回	前年度との比較
必修問題	五肢択一	0	4	4 問増加 ↑
	五肢択二	0	0	増減なし
一般問題	五肢択一	11	16	5 問増加 ↑
	五肢択二	16	16	増減なし
状況設定問題	五肢択一	4	1	3 問減少 ↓
	五肢択二	5	4	1 問減少 ↓

■ 難易度・傾向分析

今回の試験は全体に「ひねり」や「紛らわしい選択肢」が少なく、平均点は高くなると推測されます。

必修問題は、解釈の分かれる問題は少なく、基本知識が定着していれば対応できる内容が中心でした。

一般問題は、過去問ベースですが、単純暗記では対応できない「切り口を変えた出題」が目立ちました。

状況設定問題は、根拠が明確で正答を導き出しやすく、昨年度対比ではやや易くなった印象です。

II. 必修問題

全体としては過去問題を中心とした出題でしたが、昨年度と比較すると、**過去問題の暗記だけでは対応できない問題が増加**しました。午前 13（胆嚢炎でみられる腹痛の典型的な部位）のように、問われている内容は過去問題と同じであるものの、過去問題をそのまま出題するのではなく、**設問の問い方や切り口を変えた問題**が目立ちました。また、午後 21（筋肉内注射）のように、**過去に一般問題として出題された問題を改変して必修問題として出題**された問題もみられました。難易度の高かった問題には、午前 22（酸素投与器具）や、午後 11（摂食中枢）がありました。これらの問題も、過去に一般問題で出題された内容を改変した問題でした。

■問われている内容は過去問題と同じだが設問の問い方や切り口を変えた問題

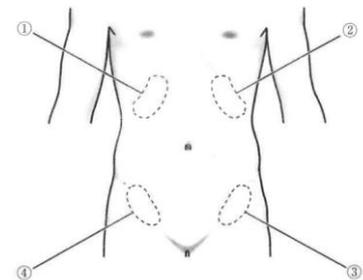
午前 13 では、胆嚢炎でみられる腹痛の典型的な部位を図から選択する問題が出題されました。本問の類題は第 101 回に出題されています。問われている内容はほぼ同じですが、「**胆石症・胆嚢炎＝右季肋部痛**」と丸暗記しているだけでは本問には**対応できません**。胆嚢はどの位置にあるのか、右季肋部とはどの位置なのか、解剖生理や用語の意味をきちんと理解できているかを問われた問題でした。問い方や切り口が変わっても対応できるよう、本質的な理解が求められます。また、過去に出題された「虫垂炎のマックバーニー点の図」を思い浮かべ、「選択肢④右下腹部」を選択した受験生もいたようです。胆嚢の位置という解剖生理の根拠よりも、「よく見る図、よく見る位置」という曖昧な記憶に引きずられた結果だと推測されます。

【今年度問題〈第 115 回午前 13〉】

腹部の図を示す。

胆嚢炎でみられる腹痛の典型的な部位はどれか。

1. ① (○) ※弊社予想解答
2. ②
3. ③
4. ④



【過去問題〈第 101 回 午前 12〉】

右季肋部の疝痛発作を特徴とする疾患はどれか。

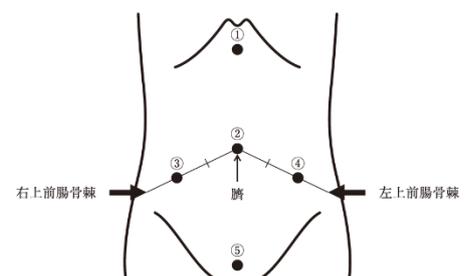
1. 胃癌
2. 腸閉塞
3. 胆石症 (○)
4. 十二指腸潰瘍

【過去問題〈第 112 回 午後 25〉】

腹部前面を図に示す。

McBurney〈マックバーニー〉圧痛点はどれか。

1. ①
2. ②
3. ③ (○)
4. ④
5. ⑤



■一般問題の誤答肢を改変して必修問題とした問題

午後 21 では、筋肉内注射の部位を選択する問題が出題されました。本問の知識は、第 112 回の一般問題で選択肢の一つに含まれていました。つまり「かつての一般問題の選択肢を改変し、必修問題として出題された」といえます。また、選択肢 1 は過去の類題では誤答肢であり、正答肢の暗記だけでは対応が困難でした。過去問題を解く際は、正解して終わりにするのではなく、誤答肢についても「なぜ誤りなのか」を確認し、関連知識を身につけていく学習が求められます。

【今年度問題〈第 115 回午後 21〉】

筋肉内注射を行う部位で適切なのはどれか。

1. 三角筋 (○) ※弊社予想解答
2. 大殿筋
3. 上腕二頭筋
4. 大腿二頭筋

【過去問題〈第 112 回午後 41〉】

成人への与薬方法で正しいのはどれか。

1. 筋肉内注射は大殿筋に行う。
2. 坐薬は肛門から 1 cm 挿入する。
3. バッカル錠は、かんでから飲み込む。
4. 点眼薬は下眼瞼結膜の中央に滴下する。(○)

■難易度の高かった問題①

午前 22 では、最も高濃度の酸素を吸入できる酸素投与器具を選択する問題が出題されました。本問の類題は第 98 回午後 40 で出題されていますが、必修問題としては初出の内容であり、従来の一般問題レベルの知識が問われたため、難しく感じた受験生も多かったのではないのでしょうか。

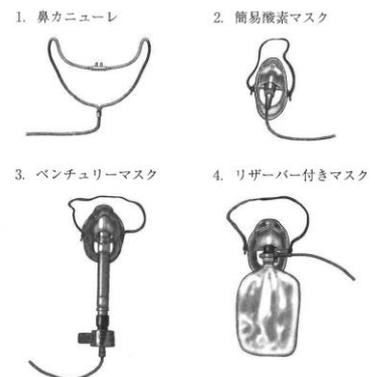
また、本問では「最も高濃度の酸素を吸入できるのはどれか」、類題では「酸素吸入濃度 50～98%に最も適した器具はどれか」と設問の問い方が異なっており、単なる過去問題の暗記だけでは正答を選ぶことができず、各酸素投与器具の特徴・機能（酸素流量・酸素濃度の目安）を正しく理解できていなければ解けない問題でした。

【今年度問題〈第 115 回午前 22〉】

酸素投与器具を図に示す。

最も高濃度の酸素を吸入できるのはどれか。

1. 鼻カニューレ
2. 簡易酸素マスク
3. ベンチュリーマスク
4. リザーバー付きマスク (○) ※弊社予想解答



【過去問題〈第 98 回午後 40〉】

酸素吸入濃度 50～98%に最も適した器具はどれか。

1. 鼻カニューレ
2. 単純酸素マスク
3. ベンチュリーマスク
4. リザーバー付酸素マスク (○)

■難易度の高かった問題②

午後 11 は、摂食中枢が存在する部位を問う問題でした。本問も、前述の午前 22 と同様、過去に第 103 回に**一般問題として出題された問題が改変された問題**でした。また、第 103 回では「視床下部の機能で正しいのはどれか→摂食行動の調節」と問われているのに対し、本問では「摂食中枢が存在する部位はどれか→視床下部」と問われており、設問の問われ方が異なっていました。過去に摂食中枢が存在する部位を直接問う問題はなく、設問の問われ方が変わったことで多くの受験生が難しく感じたかもしれません。このように**設問の問われ方が変わっても対応できるよう、正答の選択肢を暗記するだけでなく、正確な知識を身につけておく必要があります。**

【今年度問題〈第 115 回午後 11〉】

摂食中枢が存在する部位はどれか。

1. 延髄
2. 小脳
3. 下垂体
4. 視床下部 (○) ※弊社予想解答

【過去問題〈第 103 回午前 83〉】

視床下部の機能で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 感覚系上行路の中継核
2. 長期記憶の形成
3. 摂食行動の調節 (○)
4. 飲水行動の調節 (○)
5. 姿勢の調節

Ⅲ. 一般問題

過去問題を基に作成された問題がみられた一方で、**深い知識を問う問題や、過去に問われたことのない新規問題が出題されるなど、解きやすい問題と解きにくい問題の差がはっきりしていました。**特に「人体の構造と機能」では、午後 76（心臓からの血液の拍出）のように深い知識を問う問題や、午後 26（蝸牛管頂部近くの Corti〈コルチ〉器で感知される音）や午後 27（水素イオンが刺激となって感じる味覚）のように過去に問われたことのない新規問題が出題されており、**基本事項をなぞるだけの表面的な学習では得点が難しかった**と思われます。

また、「健康支援と社会保障制度」ではこれまで 1 問につき 1 つの知識（制度、法律）を問う形式が多く出題されていましたが、今年度は午後 31（医療提供施設）のように、**選択肢ごとに異なる知識を問う問題**もみられました。

さらに、全体として臨床における解釈・判断・実践能力を問う問題が増えており、午前 80（国際生活機能分類〈ICF〉）や午前 82（キューブラー・ロス,E.の死にゆく人の心理過程）では、**過去に単純想起型として出題された問題が解釈型の問題として出題**されました。

■ 過去問題を基に作成された問題

午前 34 では、股関節の運動を問う問題が出題されました。また、第 107 回に出題された類題では、誤答肢の 1 つとして今回の正答肢である内旋が扱われています。過去問題の学習において、**正答を確認するだけでなく、誤答肢がなぜ誤りなのか、それぞれの選択肢はどのような運動を示しているのかを丁寧に確認しておくこと**の重要性を改めて示した問題でした。

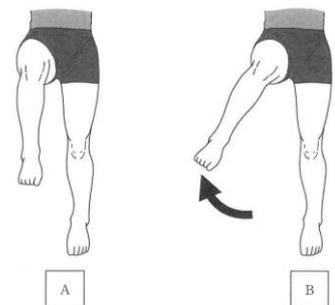
【今年度問題〈第 115 回午前 34〉】

臥床して右股関節と右膝関節を 90 度屈曲位にした図を A に示す。

A の状態から右下肢を矢印の方向に動かして B の状態になった。

このときの股関節の運動はどれか。

1. 外旋
2. 外転
3. 内旋 (○) ※弊社予想解答
4. 内転

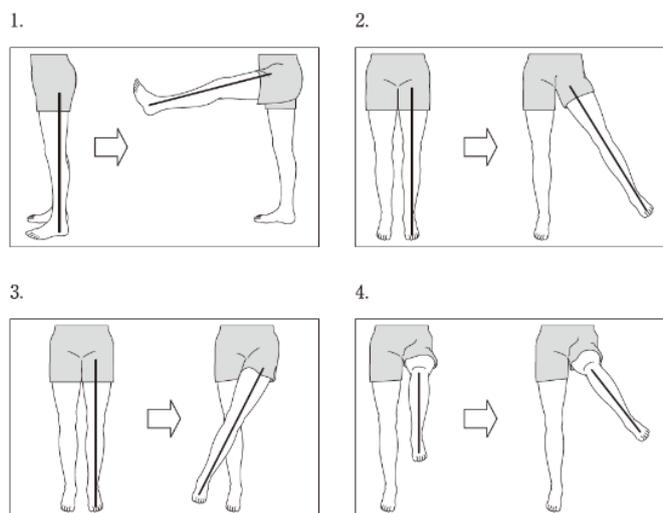


【過去問題〈第 107 回午後 10〉】

股関節の運動を図に示す。

内転はどれか。

1. ①
2. ②
3. ③ (○)
4. ④



■深い知識を問う問題

午後 76 は、心周期における房室弁・動脈弁の開閉のタイミングと、心室の収縮・拡張の関係が問われました。心周期に関する類題は第 112 回にもありましたが、本問ではさらに踏み込んだ深い知識・理解が問われました。これまで「人体の構造と機能」では表面的な暗記で正答できる問題もありましたが、近年は基本を踏まえた深い理解を問う傾向が強まっています。本領域は多くの学生が苦手とする科目です。単に過去問題を解いて正答を暗記するだけでなく、教科書や参考書を用いて体系的に学習することが重要です。

【今年度問題(第 115 回午後 76)】

心臓からの血液の拍出について正しいのはどれか。

1. 静脈還流量より多い。
2. 左心系の方が右心系より多い。
3. 左右の動脈弁は同時に閉まる。
4. 心房拡張期の途中で房室弁が開く。(○) ※弊社予想解答
5. 心室収縮期は動脈弁が開いて開始する。

【過去問題(第 112 回午後 26)】

心周期に伴う心臓の変化で、収縮期の初期には心室の容積は変わらずに内圧が上昇していく。

このときの心臓で正しいのはどれか。

1. 僧房弁は開いている。
2. 大動脈弁は開いている。
3. 左心室の容積は最小である。
4. 左心室の内圧は大動脈圧よりも低い。(○)

■過去に問われたことのない新規問題

午後 26 や午後 27 では、過去に問われたことのない新規問題が出題されました。新規問題は過去問題を解いているだけでは対応できないことも多いです。関連知識を体系的に学習し、幅広い知識を身につけておくことが重要です。

【今年度問題(第 115 回午後 26)】

蝸牛管頂部近くの Corti(コルチ)器で感知されるのはどれか。

1. 高い音
2. 低い音 (○) ※弊社予想解答
3. 大きい音
4. 小さい音

【今年度問題(第 115 回午後 27)】

水素イオンが刺激となって感じる味覚はどれか。

1. 塩味
2. 甘味
3. 酸味 (○) ※弊社予想解答
4. うま味

■ 選択肢ごとに異なる知識を問う問題

午後 31 は、医療提供施設について正しい内容を選ぶ問題でした。「健康支援と社会保障制度」では、1 問につき 1 つの知識（制度、法律）を問う形式の問題が多く出題されますが、本問は選択肢ごとに異なる知識を問う形式の問題でした。本問では、感染症病床、特定機能病院、介護医療院、訪問看護ステーションの 4 つの施設についての知識が問われており、**正答を導くうえで幅広い知識が求められました**。この形式の問題は「健康支援と社会保障制度」以外の科目でも増えています。

【今年度問題〈第 115 回午後 31〉】

医療提供施設について正しいのはどれか。

1. 感染症病床における看護職員の人員配置基準は 3 : 1 である。 (○) ※弊社予想解答
2. 特定機能病院には、医療機器の共同利用の実施が求められる。
3. 介護医療院は要介護高齢者に急性期医療を提供する施設である。
4. 訪問看護ステーションの運営基準は医療法によって規定される。

【過去問題〈第 94 回午前 38〉】※選択肢 1 の類題

医療法で病床種別と入院患者数に対する看護職員の人員配置基準との組合せで正しいのはどれか。

1. 療養病床 —— 患者 7 人に 1 人以上
2. 結核病床 —— 患者 5 人に 1 人以上
3. 一般病床 —— 患者 3 人に 1 人以上 (○)
4. 特定機能病院 —— 患者 2 人に 1 人以上

【過去問題〈第 100 回午後 37〉】※選択肢 2 の類題

特定機能病院で正しいのはどれか。

1. 地域の医療従事者の資質向上のための研修を行う能力を有する。
2. 高度の医療技術の開発および評価を行う能力を有する。 (○)
3. 300 人以上の患者を入院させるための施設を有する。
4. 都道府県知事の承認を得て設立される。

【過去問題〈第 114 回午前 60〉】※選択肢 3 の類題

介護医療院の説明で正しいのはどれか。

1. 健康保険法に基づき設置される。
2. 入所対象者は要介護 3 以上である。
3. 要介護高齢者の長期療養・生活施設である。 (○)
4. 看護職員数は入所者 100 人当たり 3 人である。

【過去問題〈第 103 回追試午前 25〉】※選択肢 4 の類題

訪問看護ステーションで正しいのはどれか。

1. 利用者は高齢者に限定される。
2. 24 時間体制を義務付けられている。
3. 常勤換算で 2.5 名以上の看護職員が必要である。 (○)
4. サービスの提供は看護職員でなければならない。
5. 勤務する看護職員は臨床経験 5 年以上と定められている。

■過去の単純想起型の問題を改変して解釈型の問題として出題された問題

午前 80 では、A さんの生活状況から国際生活機能分類<ICF>の「活動」に該当するものを選ぶ問題が出題されました。また、午前 82 では、患者の具体的な状況からキューブラー・ロス,Eによる死にゆく人の心理過程の段階を選ぶ問題が出題されました。これらの問題は、過去に単純想起型の問題として出題されていましたが、今年度は一步踏み、情報を理解・解釈して解答を導き出す解釈型の問題として出題されました。**近年の国家試験では、臨床における解釈・判断・実践能力を問う問題が増えており、単に知識を覚えるだけでなく、学んだ知識を臨床でどのように応用するのかを意識した学習**が求められます。

【今年度問題<第 115 回午前 80>】

A さん（91 歳、男性）は市営団地の 2 階に 1 人で暮らしている。高血圧症で内服治療しているが、他に既往歴はない。日常生活動作<ADL>は自立している。トイレや浴室の段差でつまずくことがあり、手すりを設置した。最近では家でテレビを観て過ごすことが多くなった。

A さんの生活状況で、国際生活機能分類<ICF>の「活動」に該当するのはどれか。

1. 1 人暮らし
2. 手すりの設置
3. 段差でのつまずき
4. テレビを観て過ごす
5. 日常生活動作<ADL>は自立（○）※弊社予想解答

【過去問題<第 113 回午後 32>】

国際生活機能分類<ICF>で「生活機能」の構成要素に含まれるのはどれか。

1. 活動（○）
2. 疾病
3. 能力障害
4. 社会的不利

【今年度問題<第 115 回午前 82>】

キューブラー・ロス,Eによる死にゆく人の心理過程のなかで、肺癌と診断された人が、喫煙をやめることで病気をなかったことのできるのではないかと考える段階はどれか。

1. 怒り
2. 受容
3. 取引（○）※弊社予想解答
4. 否認
5. 抑うつ

【過去問題<第 110 回午前 13>】

キューブラー・ロス,Eによる死にゆく人の心理過程で第 5 段階はどれか。

1. 怒り
2. 否認
3. 死の受容（○）
4. 取り引き

IV. 状況設定問題

全体としては根拠が明確で解きやすい問題が非常に多く、「ひねった問われ方」や「紛らわしい選択肢」に悩まされる問題はほとんどありませんでした。また、例年と同様に、過去に出題された事例と類似した設定が多くみられました。一方で、午前 94（胸部食道癌の A さんの術後合併症）のように、A さんの情報を基に正確なアセスメントをしなければ正答にたどり着けない問題もみられました。

■ 過去問題で出題された事例と類似した設定の事例

午後 103～105 は高齢者の看取りをテーマとした事例でしたが、第 101 回午後 103～105 にも事例の設定や各問題の設定文・選択肢が類似した問題がありました。状況設定問題では例年、過去問題を流用改変した問題が多くみられます。まずは過去問題の頻出事例について、病態や症状、検査、治療などの基礎知識や看護ケアをきちんと押さえておくことが重要です。

【今年度問題〈第 115 回午後 103-105〉】

次の文を読み 103～105 の問いに答えよ。

A さん（102 歳、女性）は夫と死別した後、介護老人福祉施設に入所しており、息子夫婦が頻繁に面会に来ている。転倒による大腿骨骨折をきっかけに寝たきりになり、食事摂取量が低下した。A さんは「私はここで最期を迎えたい」と自分の気持ちを看護師に話した。看護師は、A さんが点滴や酸素吸入などの延命処置を希望しないことを確認した。医師は家族に A さんは老衰であるため回復の見込みが低いことを伝え、家族も延命処置は行わずに施設での看取りに同意した。

103 A さんは「私らしく死にたいの」と何度も看護師に話すようになった。

看護師の声かけで最も適切なのはどれか。

1. 「A さんはまだまだ頑張れますよ」
2. 「できるだけ A さんのそばにいます」
3. 「A さんがどうしたいか教えてください」 (○) ※弊社予想解答
4. 「そんなことを言うとご家族が悲しみますよ」

104 A さんはほとんど食事がとれなくなり、尿量も減少してきた。自発的な動きも減少し、傾眠状態となった。家族は A さんの状態の変化に驚き「本人は苦しいのでしょうか。そばにいても良いのかどうか分かりません」と看護師に話した。

A さんの家族への看護師の説明で適切なのはどれか。

1. 「もう何も感じませんよ」
2. 「これからの経過についてお話します」 (○) ※弊社予想解答
3. 「状態が不安定なのでケアは職員で行います」
4. 「これからはご家族が目を見守ってください」

105 A さんは深い昏睡状態となり、四肢の冷感、チアノーゼ、喘鳴および下顎呼吸が出現してきた。医師は家族に A さんの死期が近いことを説明した。

看護師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 足浴を行う。
2. 口腔内吸引を行う。
3. 心肺蘇生の準備をする。
4. 家族と過ごせるよう居室を整備する。 (○) ※弊社予想解答

【過去問題〈第 101 回午後 103-105〉】

次の文を読み 103～105 に答えよ。

A さん（99 歳、女性）は、特別養護老人ホームに入所している。脳卒中の後遺症で左片麻痺がある。肺炎をきっかけに寝たきりになり、食事摂取量が低下した。A さんは「私はここで最期を迎えたい。痛い思いはしたくない。死ぬときは苦しまないようにしてもらいたい」と何度も話すようになった。娘夫婦と孫とが頻繁に面会に来ている。医師が家族に回復の見込みが低いことを伝え、家族は特別養護老人ホームでの看取りに同意した。

103 A さんは「1 人で死ぬのは寂しい」と看護師に話した。

看護師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「死ぬときは苦しきくないですよ」
2. 「A さんは十分頑張ってきましたね」
3. 「できるだけ A さんのそばにいますよ」 (○)
4. 「そんなことを言うとうご家族が心配しますよ」

104 A さんはほとんど食事を摂らなくなり、尿量も減少してきた。自発的な動きが減少し、傾眠状態となった。

A さんの家族への看護師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「状態が不安定なのでケアは職員で行いますね」
2. 「これからはご家族が目を離さないくださいね」
3. 「刺激せず、なるべくそっとしておいてくださいね」
4. 「これからの経過について説明しますね」 (○)

105 A さんは深い昏睡の状態になり、四肢の冷感、チアノーゼ及び下顎呼吸が出現してきた。痰は絡んでいない。医師は付き添っていた家族に A さんの死が近いことを告げた。

A さんへの看護師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 見守る。 (○)
2. 下肢を挙上する。
3. 酸素吸入をする。
4. 気管内吸引をする。

■Aさんの情報を正確に把握してアセスメントしなければ正答にたどり着けない問題

午前 94 は、胸部食道癌の術前の A さんの状況から術後に最も起こる可能性の高い合併症を選択する問題でした。本問は、長年の喫煙歴（20 歳から毎日 20 本）と呼吸機能所見（%VC 78%・FEV₁% 67% = 混合性換気障害）を根拠に「無気肺」を選択する問題でした。また、第 101 回午後 94 の類題では、Hb9.5g/dL、血清総蛋白 5.4g/dL、アルブミン 2.5g/dL を根拠に、「低栄養状態」を選択する問題が出題されました。本問（第 115 回午前 94）も A さんの栄養状態がやや低め（総蛋白 6.2g/dL、アルブミン 3.8g/dL）であることや、過去問題の正答肢に引きずられて「縫合不全」を選択した受験生もいたかもしれません。

状況設定問題は、臨床場面を想定した事例をもとに、解釈・判断・実践力を問うことを趣旨とした問題が出題されています。問題文中の A さんの情報を正しく読み取ることができるかどうか、読み取った情報から A さんに必要な看護問題を抽出できるか、A さんの看護問題に対してどのような看護ケアが必要か、これらの解釈・判断・実践力を養っていくことが重要です。

【今年度問題〈第 115 回午前 94〉】

次の文を読み 94～96 の問いに答えよ。

A さん（56 歳、男性、会社員）は胸部食道癌と診断され、開胸開腹下で食道切除再建術を受けることになった。病状と手術の説明を聞き「酒もほとんど飲まないのに、食道癌になっちゃうんですね」と落ち込んだ様子で「早くよくなりたい。20 歳から毎日 20 本吸っていたタバコも手術が決まってやめました」と話した。

身体所見：身長 168cm、体重 54kg、BMI19。

血液所見：Hb 13.6g/dL、Ht 41.4%、血小板数 28 万/ μ L、プロトロンビン時間 11 秒、総蛋白 6.2g/dL、アルブミン 3.8g/dL、空腹時血糖 102mg/dL、HbA1c 4.8%。

呼吸機能所見：%VC 78%、FEV₁% 67%。

94 術前の A さんの状況から、術後に最も起こる可能性の高い合併症はどれか。

1. 出血
2. 無気肺（○）※弊社予想解答
3. 縫合不全
4. 深部静脈血栓症〈DVT〉

【過去問題〈第 101 回午後 94〉】

次の文を読み 94～96 の問いに答えよ。

A さん（52 歳、男性）は、2 か月で体重が 7 kg 減少した。2 か月前から食事のつかえ感があるため受診した。検査の結果、胸部食道癌と診断され、手術目的で入院した。

94 入院時の検査データは、Hb 9.5g/dL、血清総蛋白 5.4g/dL、アルブミン 2.5g/dL、AST〈GOT〉24 IU/L、ALT〈GPT〉25 IU/L、 γ -GTP38 IU/L、尿素窒素 18mg/dL、クレアチニン 0.7mg/dL、プロトロンビン時間 82%（基準 80～120）であった。

A さんの状況で術後合併症のリスクとなるのはどれか。

1. 出血傾向
2. 腎機能障害
3. 低栄養状態（○）
4. 肝機能障害

V. 第 116 回国家試験に向けての対策

① 過去問題は「すべての選択肢を説明できるまで」丁寧に取り組む

国試対策の基本は過去問演習であることは変わりません。しかし近年では、過去に誤答肢として出題された知識が形を変えて出題されることも多く、なんとなく問題を解いて正答を覚えるだけの学習では対応が難しくなっています。演習においては正答肢がなぜ正しいのかはもちろん、誤答肢がなぜ誤りなのかを、根拠をもって自分の言葉で説明できるまで深掘りする学習が求められます。

② テキストや参考書を用いて、知識を「体系的」に整理する

近年は過去問題をベースにしつつも、切り口を変えた問題や、頻出テーマをさらに深掘りした問題、そして新規問題が増加しています。これらに対応するためには、単なる過去問演習にとどまらず、テキスト（教科書）や参考書を活用して、テーマの関連知識を体系的に学習することが求められます。

・「人体の構造と機能」は、症状と「正常な仕組み」をつなげる

ここ数年、「人体の構造と機能」は難化傾向が続いており、単純な知識の暗記だけでは対応が難しくなっています。表面的な学習に留まらず、「なぜこの疾患ではこの症状がみられるのか？」や「そもそもこの臓器はどんな役割を担っているのか？」など、日々の講義で理解を積み重ねていく学習が大切です。

・「健康支援と社会保障制度」は、役割と法的な根拠を整理する

選択肢ごとに異なる知識を問う形式がみられ、特定のテーマに偏った学習では得点に結びつきにくくなっています。まずは「その制度は誰を支援するものか」という全体像（役割）を把握した上で、個々の制度が「どの法律（法的根拠）に基づいているか」をセットで確認する学習が重要です。

③ 学んだ知識を臨床でどのように「応用」するのかを意識する

今年度の「午前 82（死にゆく人の心理過程）」に代表されるように、過去には単純想起型の問題として出題されていたテーマについても、臨床での解釈・判断・実践能力まで踏み込んで問う問題が多く出題されています。「患者さんの今の状態から何が予測できるか」という視点を持ち、座学の学びと実習での経験を結び付けて学習を進めることが大切です。

④ 必修問題と一般・状況設定問題を「領域横断的」に学習する

近年の必修問題では、過去に一般問題や状況設定問題で出題されたテーマを改変した設問が多く見受けられます。そのため、必修問題のみを切り離して学習する形式では対応できない問題が増加しています。

必修対策では、必修問題に限らず一般問題や状況設定問題など幅広い問題に取り組みながら正確な知識を身につけておくことが大切です。

⑤ 模擬試験を「自分をアセスメントする診断ツール」として活用する

学習到達度や弱点を客観的に把握するためにも、模擬試験を定期的に受験することが重要です。

特に模擬試験においては、受験後の復習が最も大切です。間違えた原因が「知識不足」によるものか、あるいは「問題文の読み取り不足」によるものかを客観的に分析し、復習を通じて確実なものに定着させることが求められます。本番に近い難易度の模擬試験に取り組むことで、新傾向の問題や予想問題に数多く触れ、問われ方の変化にも対応できる実践的な力を養うことができます。こうした積み重ねが、本番で確実に得点できる力へとつながります。